

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

95

冬の特集展

平成新指定史跡展覧

— 未来へつなぐ福島の遺跡 —

福島県立博物館



冬の特集展

平成新指定史跡展覧

— 未来へつなぐ福島の遺跡 —

会期 平成22年2月13日(土)～5月16日(日)
会場 常設展部門展示室「考古」



白河国造の墓 (白河市下総塚古墳)
写真提供: 白河市教育委員会



伝承の城館跡 (会津坂下町陣が峯城跡)
写真提供: 会津坂下町教育委員会

先人が築き上げ、守り伝えてきた文化遺産を総称して文化財と呼んでいます。これらを大切に保護し、後世に継承していくことは、現代に生きる我々の責務です。このような趣旨から、国や地方公共団体は、この文化財のなかで歴史上または学術上価値が高いと認められる遺跡を、文化財保護法の規定によって、史跡に指定しています。

今回の特集展では、県内に所在する国史跡のうち、平成になつてから指定された史跡を中心に紹介し、文化財の保護と活用、さらにはその意義について考えます。

○史跡および出土資料の紹介

写真パネルなどで史跡の現状を紹介するとともに、そこから出土したさまざまな資料を展示して、それぞれの歴史的意義について考えます。

今回紹介する史跡は以下のとおりです。

- ・豊かな海の幸に支えられた縄文のムラ―浦尻貝塚 (南相馬市 平成一八年指定)
- ・巨大な柱の建物が建っていた縄文集落―宮畑遺跡 (福島市 平成一五年指定)
- ・姿を現した四〇〇〇年前のムラ―和台遺跡 (福島市 平成一八年指定)
- ・古代白河郡成立前夜の遺跡群―白河舟田・本沼遺跡群 (白河市 平成一七年指定)
- ・東北地方最大級の前方後方墳―大安場古墳 (郡山市 平成一二年指定)
- ・二重の堀で囲まれた豪族の館―古屋敷遺跡 (喜多方市 平成一二年指定)
- ・古代磐城郡の役所と寺―根岸官衙遺跡群 (いわき市 平成一七年指定)
- ・平安時代末期の城館跡―陣が峯城跡 (会津坂下町 平成



人体文土器（福島市和台遺跡）
写真提供：福島市教育委員会



郡役所の正殿跡（いわき市根岸遺跡）
写真提供：いわき市教育委員会



豪族の居館跡（喜多方市古屋敷遺跡）
写真提供：喜多方市教育委員会

● 展示解説会の日程

二月二十七日(土)・三月六日(土) いずれも考古学講座終了後
三月二十七日(土) 午後一時三〇分

(考古担当 田中 敏)

一九九年指定)
・ 参勤交代の道―下野街道(下郷町 平成一四年指定)
○ 史跡の整備と活用
史跡整備と活用の取り組みがどのように行われているかを、映像資料などを用いて具体的に紹介します。

この機会に、我々の身近にある貴重な文化財に目を向け、それらが日本の歴史とどのような意義をもっていたのかについて考えてみてはいかがでしょうか。
皆さまのご来館をお待ちしております。

企画展

「岡本太郎の博物館・はじめる視点」
「博物館から覚醒するアーティストたち」

関連事業

秋の企画展では、参加したアーティストの皆さんによる多彩なワークショップ・公演・パフォーマンスが行われました。一般から子供たちまでを対象に造形を中心にした内容が多かったのですが、なかなか博物館に来てもらえる機会の少ない小学生以下の子供たちが大勢参加してくれて博物館に明るい歓声



伊藤達矢さん「縄文人の家を飾ろう 竪穴住居に花飾り」

が響いたのが、とてもうれしかったです。が、ボランティアにも参加してくれた熱心な生徒さんたちの他は、逆に小中学生の参加者は少なく課題を残しました。

すべてを紹介するにはこの紙面は少なく、講師のお名前と講座名をあげるだけです。詳しくは博物館のホームページ「Making of 秋の企画展ブログ」をどうぞご覧ください。また、すべての関連事業の写真を掲載した図録別冊も刊行予定です。こちらもあわせてご覧ください。

○「仏様は何を着ていたのかな？着てみよう&見てみよう」

講師 国府由美子さん 一〇月一〇日(土)
ワークショップ「光りのらくがき」

講師 美術家・吉田重信さん 一〇月二一日(日)
○「うぶすなアートラボI お面で自分の顔を変身させよう！」

講師 美術家・出町光識さん 一〇月二二日(月・祝)

○「新聞紙を丸めて貼って子豚を作ろう」
講師 美術家・山本伸樹さん 一〇月一八日(日)

○「縄文人の家を飾ろう 竪穴住居に花飾り」
講師 美術家・伊藤達矢さん

○「縄文人の家を飾ろう 竪穴住居をクリップング」
講師 美術家・塩谷良太さん 一〇月二四日(土)

○「ダンボールでつくるはにわとおもしろ動物」
講師 美術家・わたなべあずささん 一二月七日(土)

○「うぶすなアートラボII 目玉土偶のお面で博物館を冒険しよう！」
講師 美術家・出町光識さん 一二月八日(日)

○「黄金発掘」
講師 美術家・吉田重信さん 一二月二二日(日)

◎講演会「岡本太郎といふ思想」
「館長ギャラリートーク」
講師 館長・赤坂憲雄 一〇月一七日(土)

◎「山田広野と見る『はじめる視点』ツアー」
出演 活弁士 映画監督・山田広野さん／着ぐるみアイドルユニット しでかすおともたち 一〇月二五日(土)

◎「大字揮毫 けんぱくで書く・時間を書く」
講師 書家・川島大佳さん 一二月一日(日)

◎「アーティストトーク」
講師 出品作家 一二月二三日(月・祝)

◎アンケートアート「岡本太郎についてどう思いますか？」他
講師 美術家・松本祐一さん 一二月二三日(月・祝)

(美術担当 川延 安直)



川島大佳さん「大字揮毫 けんぱくで書く・時間を書く」

Q…冬虫夏草とは何ですか

A…冬虫夏草とは、セミ、ハエ、カメムシ、トンボ、ハチ、アリなどの昆虫や、クモ類やダニ類などから生ずるキノコを総称しています。中国では清の時代の一八世紀の医学書にその名前が見られ、また、日本では江戸時代の一九世紀の本草書ほんそうに紹介されています。冬虫夏草の不思議について、日本冬虫夏草の会のホームページを参考に調べてみましょう。

冬虫夏草は、寄生した昆虫などから養分をとり、その昆虫などの体内で菌核（菌糸の固まり）を形成し、昆虫などの体を突き破ってキノコ（子実体）を生じます。しかし、感染経路や感染後昆虫類が死に至るまで、さらに子実体を形成するまで等、自然界における実態は、ほとんどわかっていません。

冬虫夏草と総称される種は、世界的に少なくとも三九〇種、このうち日本国内で約二五〇種が確認されています。

Q…冬虫夏草はどのようなところで見つけることができますか

A…冬虫夏草の研究者故清水大典氏は、「冬虫夏草を見つめるには、森の底にしゃがみ込んで姿勢を低くして地面を読みます。（中略）地べたにへばりつ

いて粘る。この根性、継続した忍耐が冬虫夏草の発見につながります」と繰り返し語ってきたそうです。冬虫夏草が発生するポイントを「坪」といいます。

このような「坪」は、おおむね豊かな生態系を保つ広葉樹の森林で、低海拔の場所にあります。冬虫夏草を見つめるには、この発生条件に見合った場所を定めて、林床に膝をついて丹念に地面を見つめることが必要だそうです。

Q…冬虫夏草の研究者故清水大典氏は、どのような人物ですか

A…故清水大典氏の略歴は以下のとおりです。

冬虫夏草

Q&A

佐藤 洋一

回答者
歴史担当

一九一五年二月六日に埼玉県秩父市生まれ、三年三月に埼玉県立秩父農林学校卒業。その後、埼玉県三峰高山植物園、東京大学附属小石川植物園、満州国大陸科学院植物研究室、東京大学附属小石川植物園。さらに埼玉県椎茸農協連椎茸試験場、財団法人服部植物研究所を経て、山形県米沢市の職員となりました。以後、米沢市立博物館、白布温泉熱帯植物園、米沢市立図書館などに勤務しました。一九九八年八月一九日に米沢市で逝去しました。

Q…冬虫夏草を調べる図鑑類には、どのようなものがありますか

A…図書館等に備えられている図鑑類には、以下のようなものがあります。

- ・清水大典著『原色 冬虫夏草図鑑』（誠文堂新光社、一九九四年二月）
- ・清水大典著『カラー版 冬虫夏草図鑑』（家の光協会、一九九七年九月）
- ・日本冬虫夏草の会複製『清水大典 冬虫夏草原図複製』（日本冬虫夏草の会発足二〇周年記念、二〇〇〇年八月）

テーマ展示「冬虫夏草―標本と精密画原図―」

冬虫夏草の標本と故清水大典氏の精密画原図を展示して、冬虫夏草の不思議な世界にせまります。

展示協力 日本冬虫夏草の会山形支部

（代表 井上晃一氏）

会期 平成三二年一月一六日（土）～二月二八日（日）

場所 福島県立博物館 常設展示室「歴史・美術」
常設展示料金でご覧いただけます。



ハチタケ

飛鳥から奈良・平安へ

—豪族居館と郡衙が語るもの— 横須賀倫達・大竹正浩 考古担当

二月二三日から始まる冬の特集展「平成新指定史跡展覧 未来へつなぐ福島の遺跡」では、平成になって国指定史跡となった遺跡を紹介します。展示で紹介する国指定史跡は各時代にわたりますが、ここでは、大化の改新をはさんで律令時代へと変化する時代（飛鳥時代から奈良・平安時代）の史跡をとりあげてみたいと思います。

古墳時代に各地の豪族が住んだ「豪族居館」は、特徴的な張出し付きの堀で周りを囲み、堀の内側には柵を巡らせ、内部には豪族の住まい、祭祀場、倉庫、工房などが並ぶという大規模なものでした。政治・宗教・生産を握った権力者の居館としてふさわしい場であったことが分かります。福島県内でも喜多方市古屋敷遺跡（五世紀後半）と白河市舟田中道遺跡（六世紀後半）七世紀中頃）から、特徴的な張出し付きの堀が巡る「豪族居館」が見つかり、国指定史跡となっています。では、このような豪族居館を「古墳時代型豪族居館」と呼んでおきます。

いわき市の根岸遺跡は律令時代（奈良・平安時代）の磐



喜多方市古屋敷遺跡の豪族居館
 発穴住居跡 堀立柱建物跡 溝跡 柵列跡

城郡衙（郡役所）と推定される遺跡です。この遺跡からは七〜八世紀代の四面に庇の付く大型建物や倉庫群がみつかり、一角が豪族の居館であったと考えられます。ただし、そこには特徴的な張出し付きの堀や柵は巡らされていません。では、このような居館を「律令時代型豪族居館」と呼んでおきます。

さて、七世紀初頭〜中頃、舟田中道遺跡の「古墳時代型豪族居館」と根岸遺跡の「律令時代型豪族居館」は、ともに豪族が住まい、居館として機能していました。この年代は、全国的な前方後円墳の造営停止から大化の改新へと、古墳時代から律令時代へ時代が大きく転換していきます。そんな時代、同時に二つのタイプの「豪族居館」が存在していた事実は何を意味するのでしょうか。古墳時代の権力基盤を基に腰を構える白河の豪族、一方いち早く中央政府と気脈を通じた磐城の豪族、そんな推定も可能です。古墳時代の終末と律令時代の始まり、時代の転換期における中央と地方、地域間の関係など、古代史研究の重要な鍵を「豪族居館」は握っています。（横須賀）

根岸官衙遺跡群は、古代の磐城郡衙（郡役所）である「根岸遺跡」と関連寺院の「夏井廃寺跡」から構成されており、官衙の規模や関連寺院の建物の配置などを明確に把握することが出来ます。このことから古代国家の地方支配体制を具体的に示す重要な遺跡であるとして平成一七年に国指定の史跡になりました。

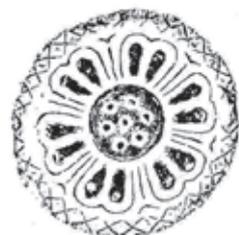
「根岸遺跡」からは、郡衙の中心建物跡の郡庁、税として集めた米を納めておく正倉群、郡衙の造営や運営に関わった豪族の屋敷と考えられる大きな建物跡などがみつかり、郡庁では七世紀後半ごろに四方に廂のついた正殿が建てられ、八世紀前半ごろに正殿の東西に脇殿が建てられます。その後は九世紀まで建物が存続していたことがわかっています。郡衙造営前の七世紀前半から八世紀半ばまでの豪族の屋敷跡も見つかり、屋敷は三回の建て替えが行われ、その都度に屋敷の規模が大きくなっています。

建物跡の移り変わりなどから律令体制が進展し郡衙が整備されていく中で、地方豪族が役人として権力を伸長させていったことがわかります。

遺跡内の湿地からは、税金の米に付けられていた荷札木簡や木製の農具・祭祀用の木製品が多数見つかりました。荷札木簡には、「飯野郷」・「玉造郷」・「判祀郷」などの郷名が書かれています。現在でも地名などに「飯野」「玉造」が見られることから、当時の郷名の場所を推定することができます。「判祀郷」については、現在の地域でどこにあたるか、今のところ特定できていません。

「根岸遺跡」の北側に位置する「夏井廃寺跡」からは、講堂・金堂・塔・中門などの建物跡や建物群を区画する溝が見つかっています。瓦などから七世紀の終り頃に寺院が建立され、一〇世紀前半ごろには衰退していったことがわかっています。「夏井廃寺跡」から見つかっている軒丸瓦の一つに図に示した「複弁六葉蓮華文」と呼ばれるタイプがあります。このタイプの軒丸瓦は、白河郡衙跡の関和久遺跡・関和久上町遺跡・白河郡衙の関連寺院の借宿廃寺跡、安積郡衙跡の郡山市清水台遺跡でも見つかっています。このような点から福島県南部の郡衙や関連寺院の造営については、同じ系列の工人集団の活動をうかがう事ができます。

また、「根岸遺跡」・「夏井廃寺跡」の北西に位置する小茶田遺跡からは、一般の集落では見られない灰釉陶器や緑釉陶器も見つかっており、時期は九〜一〇世紀にあたります。「根岸遺跡」が郡衙としての役割を終えていく中で、地方の政治体制も変化していったことがうかがえます。（大竹）



夏井廃寺跡から見つかった複弁六葉蓮華文軒丸瓦

〈漆のくに・会津〉プロジェクトトークイベント 知力と地力を活かした地域の活性化

会津の大事な文化資源・漆。
縄文時代から現代までの長い歴史。
漆の木を育て、液を掻き、木地を挽き、塗り、装飾してきた伝統の技。
何世代にも渡り使い続けてきた暮らしの美。
会津の、そして日本の漆文化を未来につなぐために
地域の文化資源を活用して地域の活性化を行っている取り組みを、
4組のゲストにご紹介いただきます。
各回とも聞き手は、赤坂館長。どうぞご来場ください。

【第1回】「F-styleの仕事」

ゲスト：五十嵐恵美さん
星野若菜さん（F-style）
日 時：1月16日（土）13：30～



シナ織のバッグ

【第2回】「会津の地力」

ゲスト：渡邊晃一氏（福島大学准教授）
山形洋一氏（前喜多方市美術館館長）
日 時：2月19日（金）15：00～



岡部昌生
「土の記憶－会津本郷の土－」
会場：酔月齋【風と土の芸術祭2009】

【第3回】「越後妻有とアート之力」

ゲスト：北川フラムさん
（越後妻有大地の芸術祭総合ディレクター）
日 時：2月20日（土）13：30～



田島征三「絵本と木の実の美術館」
撮影：宮本武典＋瀬野広美【大地の芸術祭2009】

*各回とも入場無料、会場は講堂。

千少庵と蒲生氏郷

天正一九年（一五九二）二月二十八日、豊臣秀吉の怒りを受けて千利休が死去。それによって、千家は存続の危機を迎えました。利休の二人の息子のうち、道安は飛騨や阿波などに身を潜め、少庵は会津の蒲生氏郷のもとへ預けられました。氏郷は利休七哲の一人に挙げられる茶人でもあり、少庵を保護し、徳川家康と秀吉へのとりなしに尽力したとされています。京都に戻った少庵は、権力と一定の距離を持ってわび茶人に徹し、利休の茶の湯を忠実に継承していきました。それは現在に続く千家茶道の礎となっています。

本展では、利休の茶の精神やそれを受け継いだ千少庵と蒲生氏郷の茶の湯をゆかりの品から紹介するとともに、会津を治めた蒲生氏郷と同時代の武将たちの足跡をご覧いただきます。特に表千家、裏千家の両家元のご協力により可能となったご所蔵の貴重な品々は必見です。会津で利休・氏郷・少庵ゆかりの茶道具をご覧いただくまたとない機会をどうぞお見逃しなく。
（美術担当 小林めぐみ）



しころひき
黒楽茶碗 銘 綱引 長次郎作
千利休・蒲生氏郷所持
裏千家今日庵蔵

主 催：福島県立博物館
茶道資料館
特別協力：財 表千家不審庵
（財）裏千家今日庵

特集展

※常設展料金でご覧になれます

「平成新指定史跡展覧―未来へつなぐ福島の遺跡―」
会期 2月13日(土)～5月16日(日)

テーマ展

※常設展料金でご覧になれます

「ズームアップ!平島松尾」

―明治ふくしま新聞創刊のバイオニア―
会期 平成21年11月28日(土)～平成22年1月11日(月)

「冬虫夏草―標本と精密画原図―」
会期 1月16日(土)～2月28日(日)

「絵で見る歳時記―四季の楽しみ―」
会期 3月6日(土)～4月11日(日)

ポイント展

※常設展料金でご覧になれます

「縄文の匠 荒屋敷」
会期 平成21年4月21日(火)～平成22年3月31日(水)

「玉の阿克セサリー」
会期 平成21年7月22日(水)～平成22年3月31日(水)

「古代の鉄生産」
会期 平成21年9月15日(火)～平成22年3月31日(水)

「紙漉き」
会期 平成21年12月19日(土)～平成22年3月31日(水)

「げんばく 小さなひな祭り」
会期 2月6日(土)～4月4日(日)

ミュージアムイベント

○文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業

「漆のくに・会津」プロジェクト

知力と地力を活かした地域の活性化1

First style (伝統産業プロジェクト)

講師 First style (伝統産業プロジェクト) 五十嵐恵美さん

星野 若菜さん

聞き手 館長 赤坂憲雄

会場 講堂

日時 1月16日(土)13時30分～15時

「漆のくに・会津」プロジェクト

知力と地力を活かした地域の活性化2 会津の地力

講師 福島大学准教授 渡邊晃一さん

前喜多方市美術館館長 山形洋一さん

聞き手 館長 赤坂憲雄

会場 講堂

日時 2月19日(金)15時～17時

「漆のくに・会津」プロジェクト

知力と地力を活かした地域の活性化3

越後妻有とアートの力

講師 越後妻有大地の芸術祭総合ディレクター

北川フラム

聞き手 館長 赤坂憲雄

会場 講堂

日時 2月20日(土)13時30分～15時

木曜の広場『会津農書』の世界

場所 講堂

第10回「会津農書」と村人たち

―会津幕内の村落風景―
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

日時 1月7日(木)13時30分～15時

第11回「会津農書」の技術と村

―近世の農業技術と村形成―
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

日時 2月4日(木)13時30分～15時

第12回「会津農書」と会津の三泣き

―会津の地域性と民俗―
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

日時 3月4日(木)13時30分～15時

講演・講座

※は要申込

○考古学講座

※「モノで学ぶ考古学1」

講師 学芸課長 藤原妃紀

日時 1月23日(土)13時30分～15時 実習室

※「モノで学ぶ考古学2」

講師 学芸員 田中 敏

日時 1月30日(土)13時30分～15時 実習室

※「モノで学ぶ考古学3」

講師 学芸員 森 幸彦

日時 2月6日(土)13時30分～15時 実習室

※「モノで学ぶ考古学4」

講師 学芸員 横須賀倫達

日時 2月27日(土)13時30分～15時 実習室

※「モノで学ぶ考古学5」

講師 学芸員 大竹正浩

日時 3月6日(土)13時30分～15時 実習室

○民俗講座

「学芸員佐々木長生と民俗を語る3

ふくしま 市の世界」

講師 福島県文化財センター白河館 大山孝正さん

学芸員 佐々木長生

日時 1月9日(土)13時30分～15時 視聴覚室

「学芸員佐々木長生と民俗を語る4

奥会津 山村の暮らしと民俗」

講師 学芸員 鈴木克彦 佐々木長生

日時 2月13日(土)13時30分～15時 視聴覚室

「学芸員佐々木長生と民俗を語る5

ふくしま 火伏せ事情事始」

講師 学芸員 榎 陽介 佐々木長生

日時 3月13日(土)13時30分～15時 視聴覚室

体験講座

※は要申込

※「でんでん太鼓をつくろう」

講師 展示解説員 渡邊 美美 ほか

日時 3月22日(月)13時30分～15時30分

やさしい展示解説

*展示解説員による常設展総合展示の案内です。

*毎週土曜日、日曜日の11時と14時から30分ほど行います。

*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。

*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

1月～3月の休館日

1月 1日(金)・2日(土)・3日(日)・4日(月)
12日(火)・18日(月)・25日(日)
2月 8日(月)・12日(金)・15日(月)・22日(月)
3月 1日(月)・8日(月)・15日(月)・23日(火)
29日(月)